

4. スポーツの良さを生かした多様なまちづくりについてお聞きいたします。

まずF C大阪のホームタウン化とプロスポーツのまちづくりへの活用について伺います。

市長は市政運営方針演説の中で、東大阪市をホームタウンとするJFLサッカーリーグのF C大阪のJリーグ昇格に向けた支援を強化することを述べられました。

本市をホームタウンとしているスポーツチームは野球独立リーグのゼロロクブルズと企業チームである近鉄ライナーズがあります。嘗て私はプロバスケットボールチームであるエベッサ大阪のホームタウン化を志向したことがありますが、失敗に終わった経験があります。それはスポーツが教育委員会の所管にあり、一民間企業体であるプロチームを行政が支援・優遇するのは

2003 第 1 回定例会 個人質問

になったといえます。そこでお尋ねします。プロチームであるF C大阪を支援していくメリットは何か、また東大阪のまちづくりがそれによってどのように変わろうとしているのか、お答えください。

次に、花園ラグビー場第二グラウンドの整備後の使用についてお聞きします。F C大阪はホームグラウンドを第二グラウンドにするについて、スタジアムを改築する費用を全額負担しそれを寄付する協定を市と締結しました。老朽化が問題になっていた第二グラウンドですから、市にとっても好条件の話といえますが、ラグビーのまちとして喧伝してきた東大阪でラグビーとサッカーの公式戦が重なるときにどちらが優先して使用できるようにするのか、またF C大阪の専属競技場ようになってしまって市民スポーツの利用が阻害されることはないのか。

2003 第 1 回定例会 個人質問

約半分でよいので、若者を中心に爆発的な人気を誇っています。リングさえ設置できると空き地や公園、高架下など狭い空間を利用してできるので、市街地が多い東大阪市には向いているスポーツといえるでしょう。また本市はバスケットボールが盛んなまちであり、競技人口が多いのですが、体育館が2つしかなく体育施設が貧弱と言わなければなりません。屋外の狭い空間を利用してできる3×3ができる場を市が積極的に設置する施策を実施するならば、市民のスポーツ実施率も高くなり、市民のスポーツへの関心が高まると考えます。市のお考えはいかがですか。

2003 第 1 回定例会 個人質問

公平性・平等性に反し、また体育館の利用についても市民スポーツの利用が前提となっており仕様もプロスポーツが興行しやすいようにはつくられておらず、また利用料金面でも有料で利用するプロスポーツが利用するとなると莫大な金額となり興行に大きな費用がかかってしまったことにありました。

前回の12月議会でも質問させていただいたように、法律が改正されスポーツに関することを市長部局にも持つことができるようになり、市はそれを受けて来年度からスポーツの部署を市長部局に新設したことは画期的なことであり、スポーツの持つ多様な良さをまちづくりに生かせるようになり公平性平等性を超えた視点でスポーツビジネスと接することができるようになったことは、東大阪市にとって大きな前進

2003 第 1 回定例会 個人質問

パークPFIで指定管理者が管理するようになると、そのチェックが十全にできるのか危惧するところですが、そのチェックを市の部局ができる仕組みを作っておかなければいけないと考えます。いかがお考えですか。またF C大阪がJ3に上がった時にJ2を目指すための要件として、1万人の改修が必要になった時には今後も市として今回と同じように進めていくのか、ではJ2からJ1を目指すようになったときはどうか、底を貸して母屋を取られるというようなことにならないのか、お答えください。

最後にバスケットボールにおける3×3（スリーエックススリー）の普及への取り組みについてです。3×3は3人制バスケットボールで、東京オリンピックからオリンピックの正式種目にも採用された競技です。1チーム3人でコートサイズも通常の

2003 第 1 回定例会 個人質問